



国道445号線中道橋上流の倒れた電柱



自然の脅威 台風14号

八代に残した爪跡



崩落した県道久連子～落合線の一部

9月5日から6日にかけて、主に九州の西側を通過した台風14号。その規模は「大型で強い台風」と発表され、九州付近を北上した時の通過速度は時速15〜20だったことから、長時間の風雨に晒された九州各地では様々な災害が発生しました。

鹿児島県や宮崎県などでは、死者や行方不明者が相次ぐなど、甚大な被害をもたらし、熊本県では九州山地がついたての役割を果たしたとはいえ、八代市にも大きな爪跡を残しました。

八代市では、5日夜から自主避難者が次第に増え、6日午後の台風最接近時には市全体で千人を超え、球磨川萩原堤防も危険水位を超えるなど緊張が走りました。また、泉町では猛烈な豪雨により、椀木、久連子、林の木の3地区は、ライフラインとなる国道、県道、市道の一部が崩落したり、崩れ落ちた土砂が道路をふさぐなどして通行できなくなり、電気や電話も使用できず、「陸の孤島」となりました。



球磨川が増水し、浸水した球磨川河川敷(6日夕方)

9日 救援物資空輸

8日、孤立状態が続いている泉町の3つの地区に対して、ヘリコプターによる救援物資の空輸が実施されることになりました。

9日午前10時に救援物資を積んだトラック3台が、空輸基地となる泉町平運動公園に到着しました。

9日の被災地の状況は、電気と電話は復旧したものの、依然として久連子(20世帯49人)、朴の木(6世帯20人)、樅木(栗野)7世帯20人、にがこべ2世帯12人、一本檜(いっほんがし)1世帯2人の合計36世帯103人は、道を寸断され孤立したままです。

空輸基地に届いた物資は、103人の一カ月分の食料として、米を中心にラー

メン、うどん、カレーなどのインスタント食品や缶詰などの食料品をはじめ消毒用アルコール、トイレットペーパー、オムツ、電池などを県の防災ヘリコプター「ひばり」で空輸を開始。朴の木地区内の廃土置き場を受け渡し場所とし、ホバーリング状態のまま手渡しで物資を降ろしました。

正午までの1時間で朴の木へ合計3回空輸し、正午からは陸上自衛隊第八師団(第八特科連隊・第八飛行隊)ヘリコプター3機体制で久連子、樅木への空輸を開始しました。

久連子は、「古代の里」の駐車場、樅木は、第八小学校に物資を降ろし、樅木の3カ所へは、第八小学校から各世

帯に分配されました。

午前から午後にかけて合計14回、ヘリコプター4機体制で行われた救援物資空輸は、午後2時30分ごろ終了しました。

現在、朴の木地区では、通行止めが解消されていますが、残りの地区も、早い復旧に努めています。

これから台風季節を迎えますが、万一の時を想定し、各地域の避難場所を確認したり、非常食を再確認するなど、十分に備えておくことが大切です。



9日久連子地区上空からの様子



すばやい動きで物資を積み込む災害派遣部隊



物資の積み込みを急ぐ隊員



救援物資の空輸を行う「ひばり」